

# 令和3年度事業報告書

自 令和 3年 4月 1日  
至 令和 4年 3月31日

## 事業の概要

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、緊急事態宣言の発出及びまん延防止等重点措置の実施があり、公益事業は大きな影響を受けた。講演会では聴講者に会場までお越しいただくのが困難な状況で、講演会の模様を収録したビデオ配信やオンラインによる講演会の開催を余儀なくされた。公益活動を行う上でコロナ禍の影響を受けた年度であったが、公益活動の新たな方法としてWebの利用が進んだ。

さて、近年マイワシ資源量が増大傾向にあり釧路沖の巻き網漁は2020年、2021年とまとまった漁獲量になった。しかしながら、水揚げされたマイワシの成長悪化が指摘されており、今後、マイワシの資源量とともに棲息に適した海洋環境が形成されるかどうか気が懸りなところである。

当協会では魚油及び魚粉の生産状況を迅速に把握するため、(公社)日本フィッシュ・ミール協会の協力を得て、2021年の各魚粉工場から提供される生産データをまとめる方式で調査を行った。データの詳細は後述の『2021年 水産油脂統計年鑑』に収載するが、魚粉・魚油の生産実績の概要は下表のとおりである。

	2020年	2021年	前年比
1. 原料処理量			
ラウンド	238,723トン	279,561トン	117.1%
残滓	663,620トン	672,229トン	101.3%
合計	902,343トン	951,790トン	105.5%
2. 生産量			
			歩留
魚油	78,433トン	78,840トン (8.3%)	100.5%
魚粉	194,484トン	204,851トン (21.5%)	105.3%

この他、魚油等油脂に関連するデータとして、国内・国外における漁獲量、各国の魚油・魚粉の生産量、輸出入量及び価格、植物油等等の消費量、養殖魚及び養魚飼料の生産量等の収集を行った。また、主要港で水揚げされたマイワシ、マサバの栄養成分を中心とした化学分析を(一財)日本食品分析センターに依頼し調査を行った。これらの調査データについては取りまとめを行い『2021年 水産油脂統計年鑑』として2022年5月に刊行を予定している。

講演会のうち「水産油脂資源講演会」は無観客で開催しその収録ビデオを配信し、「水産油脂技術懇話会」はWebセミナーの形で実施した。これらは『水産油脂資源講演会記録』と『水産油脂技術懇話会記録』として刊行した。また、これまでDHA・EPA協議会と共催で開催していた「公開講演会」もオンラインによる開催となった。定期刊行物としては『2020年 水産油脂統計年鑑』と関心の高いテーマなどを取り上げた『JMOAレポート』を刊行した。ホームページは重要な情報発信のツールとして随時更新し内容の充実に努めた。

## 1. 調査研究

### 1) 国内外の水産油脂及び関連する物資の資源・生産・流通・消費等についての調査

- ① (公社)日本フィッシュ・ミール協会に2021年における国内の原料処理量、魚油・魚粉の生産量・用途について調査を依頼した。
- ② 国内外の資料を収集し漁獲量、魚油・魚粉の生産量、輸出入量及び価格を調査した。また、魚油・魚粉の消費と関わりのある配合飼料生産量や水産養殖等のデータを取りまとめた。

### 2) 水産油脂及び関連物資の機能・性状及び加工利用等に関する調査研究

- ① 銚子港(千葉県)に水揚げされたマイワシ、マサバ並びに釧路港(北海道)に水揚げされたマイワシについて一般成分、脂肪酸組成等の脂質成分を分析した。
- ② 国産・輸入魚油の性状及び脂肪酸組成等について分析した。また、国産・輸入魚粉についても基礎成分をはじめアミノ酸組成等を分析した。

## 2. 広報出版

### 1) 講演会等の開催

- ① 水産油脂の資源及び流通に関する講演会

2021年8月31日、「令和3年度水産油脂資源講演会」を渋谷区文化総合センター大和田伝承ホールにて開催した。当初は会場まで聴講者に来ていただく予定であったが、新型コロナウイルスの感染予防対策の観点から、無観客で開催した。講演会の模様はビデオ撮影し、後日オンラインで配信した。

#### 【演題及び講師】

「新型コロナ感染拡大の水産業に及ぼした影響

：コロナ禍とその後に向けた課題」

国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所  
社会・生態系システム部 漁業管理グループ

研究員 杉本 あおい 先生

(杉本先生のご講演は予め作成した講演ビデオを会場で上映した)

「マイワシおよびマサバ資源の動向について」

国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所  
水産資源研究センター 浮魚資源部 浮魚第1グループ

グループ長 由上 龍嗣 先生

「大規模沖合養殖システムによる養殖業成長産業化の促進」

日鉄エンジニアリング株式会社 ソリューション共創センター

養殖システムビジネス部長 狩谷 卓郎 先生

同講演会の内容は、9月29日、30日及び10月6日の3回オンラインで配信した。

- ② 水産油脂及び関連物質等の研究・開発に関するセミナー

「水産油脂技術懇話会」を令和3年6月23日及び11月18日の2回オンラインで開催

した。

【演題及び講師】

「第 36 回水産油脂技術懇話会」

「時間栄養学と魚油による代謝改善効果」

国立研究開発法人産業技術総合研究所 細胞分子工学研究部門

食健康機能研究グループ

研究グループ長 大石 勝隆 先生

「第 37 回水産油脂技術懇話会」

「脂溶性栄養素を中心とした食品中成分の生理機能と生活習慣病予防」

お茶の水女子大学基幹研究院 自然科学系

教授 藤原 葉子 先生

③ DHA・EPA協議会と公開講演会の共催

令和 3 年 10 月 21 日に第 22 回公開講演会を『ライフステージにおけるオメガ 3 脂肪酸の関わり合い』と題して、Web によるオンラインで開催した。

【演題及び講師】

「免疫バランス制御におけるオメガ 3 脂肪酸の働きとメカニズム解明」

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所

ワクチン・アジュバント研究センター

センター長 國澤 純 先生

「ライフステージにおける $\omega$ 3系脂肪酸の関わりについて

—動物実験からわかること—」

麻布大学 生命・環境科学部 食品生命科学科

教授 守口 徹 先生

「オメガ 3 系不飽和脂肪酸と健康長寿：百寿者・超高齢者研究から」

慶應義塾大学

看護医療学部／大学院健康マネジメント研究科 教授

百寿総合研究センター

兼任教授 新井 康通 先生

2) 出版

① 『2020 年 水産油脂統計年鑑』を 5 月に刊行した。

② 『第 36 回水産油脂技術懇話会記録 時間栄養学と魚油による代謝改善効果』を 9 月に刊行した。

③ 『JMOA レポート No.22 運動による海馬機能向上効果とその増強因子アスタキサンチン』を 12 月に刊行した。

[筆者：筑波大学大学院 運動生化学研究室 教授 征矢 英昭 氏・秦 俊陽 氏]

④ 『令和 3 年度水産油脂資源講演会記録』を 12 月に刊行した。

⑤ 『JMOA レポート No.23 人と魚の骨なし研究史』を 2 月に刊行した。

[筆者：滋賀県立大学 環境科学部・大学院 教授 杉浦 省三 氏]

- ⑥ 『第 37 回水産油脂技術懇話会記録 脂溶性栄養素を中心とした食品中成分の生理機能と生活習慣病予防』を 2 月に刊行した。

### 3) ホームページ

- ① 講演会の開催及び出版物の発刊の案内を随時掲載した。  
 ② 「魚油・魚粉の貿易統計」は魚油・魚粉の輸入量・価格などを毎月更新した。  
 ③ 利用状況については定期的にアクセス数をモニターした。また、水産油脂に関わる情報として「知っておきたい基礎知識」は、コンテンツの中でアクセス数が一番多い。

	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度
総アクセス	67,924	61,842	62,547	59,396
知っておきたい基礎知識	19,962	19,077	20,093	16,834

### 3. 土地・建物施設等の賃貸及びその維持・管理

- ① 本館及び新館を公益法人に賃貸し管理・運営を行った。  
 ② 本館各トイレの洗面台に電気温水器設置工事を 11 月に実施した。  
 ③ 本館受電用高压ケーブル更新及び受変電設備改善工事を 12 月に実施した。

### 4. その他、本会の目的を達成するために必要な事業

- ① DHA・EPA協議会の事務局を当会館内に置き、同協議会の活動の支援、協力を行った。  
 ② (公社)日本油化学会・規格試験法委員会へ基準油脂分析試験法の見直し等のため委員を派遣した。委員である平田芳明理事は学会より功績賞を受賞した。  
 ③ 資金運用規程及び資金運用指針に従い資金運用を行い、評価損益及び運用損益はマイナスとなったが、利金は想定を上回った。

### 5. 庶務事項その他

#### <会 議>

- ① 定時理事会 3 回  
 ② 臨時理事会 1 回  
 ③ 定時評議員会 1 回 (書面決議)  
 ④ 評議員選定委員会 1 回

#### <その他>

- ① 内閣府に公益目的支出計画実施報告書を 6 月に提出した。  
 ② 賛助員 21 名

以 上